

区政レポート

和田ひでとし通信

第三十六号

令和七年 第一回 予算特別委員会質疑より 3/6～3/21

今年の夏は、全国的にもこれまでに経験したことのない暑さと、さらに各地での線状降水帯や局地的なゲリラ豪雨、竜巻などで被害が相次ぎました。世田谷区においても、九月十一日の局地的なゲリラ豪雨で玉川地域を中心に多くの浸水被害がありました。被災された皆様に改めてお見舞い申し上げます。やはり地球温暖化は益々深刻さを増しているようですが、自治体の危機管理体制の見直しと合わせて、自助と共助の取り組みの再確認も大変重要となりました。

高齢化率がさらに高まる中、地域の絆づくりが改めて大切であることを感じます。

今後も仮運営が続く、奥沢図書館・区民センター

通信34・35号で取り上げてまいりましたが、開架図書館がない現状を何とか打開しなければなりません。

区では令和９年度当初に、奥沢駅北側に建設される建物に区民センター（ほぼ元の規模）と図書館（貸し出しカウンターと子供向けスペース）を再仮移転する計画となりました。しかし開架図書館には程遠く、現在の区民センター仮本館が移転後、かろうじて大人向けの閲覧スペースを予定しています。つまり奥沢駅北側と南側に分散しての再仮運営となります。

元のような開架式図書館は依然として未だ計画が示されず、区はこの事態が地元にとってどれほど重要かつ深刻な問題であるかということを真剣に受け止めなければなりません。



図書館と避暑

身近なスポット見直そう

猛暑の夏が、日常にも大にぎわいだ。

群馬県の伊勢崎で41・8度を記録し、国内最高気温を更新した。今や酷暑の夏を生き抜く術は国民的課題の一つだろう。

いきなり世の中の仕組みやインフラを猛暑シフトに切り替えるのが難しいのであれば、現状の生活を工夫して対処しつつ、社会の変化を促すしかない。

そんな対応策の一つが、公共施設の積極活用だ。特に日中は図書館への「避暑」をお勧めしたい。一日中涼しく、どれだけ滞在しても無料で快適な環境で利用できる。地域のネットワークにも触れられる。

実際、夏休みの図書館はどこも大にぎわいだ。

文部科学省の社会教育調査によると、令和2年度の公立図書館の登録者数は約2860万人だった。少なくはないが、普段はあまりなじみがないという人こそ、図書館通いを日々のルーチンに取り入れてほしい。特に子供と高齢者にはお勧めしたい訳がある。

先日、文科省が発表した7年度の全国学力テストの分析では、読書が好きと答えた小中学生の方が成績が良かった。家庭の蔵書数が多いほど、国語の成績が良い傾向も見られた。

読書好きかどうかにもよるが現状、若い親世代の自宅にどのくらいの本があるだろう。なら図書館を自宅の本棚代わりにすればいい。

夏休みは絵本の読み聞かせから自由研究に役立つ講座など子供向けのイベントがめじろ押しだ。読書が楽しくなれば、文章を読んで理解する力が自然と身につく。子供が図書館好きになればしめたものである。

一方、高齢者にはこんな情報もある。図書館やその蔵書数が多い自治体ほど、要介護高齢者が少ないという研究結果だ。慶応大と京都大が調べた。

その背景には、図書館を通じて文化活動に参加したり、知的刺激を受けられたりすることがあるのではないかという。図書館に出かけることも身体活動を促すと考えられる。

暑い日は自宅にこもりがちになるが、持参した本を読んでもいい。基本的に図書館は、本の持ち込みも可能だ。

ルールさえ守れば、これほど身近なリゾート、避暑地はない。猛暑のいまこそ、図書館に行こう。

8月16日の産経新聞より



QUESTION

奥沢図書館については、周辺の公共施設の改築に合わせた複合化なども視野に入れた検討を行っていく必要があるのではないでしょうか。区の見解を伺います。



奥沢駅北側で始まった工事
令和９年度、区民センターと図書館の一部が再仮移転の予定です

ANSWER

政策経営部長

奥沢センタービルは令和19年度には、公共施設における施設更新の目安となる築65年を迎えることから、方針を決めていく必要があります。周辺における公共施設について、事前に施設の規模や築年数などの条件を整理し、様々なシミュレーションを行いながら、区としての方針を検討してまいります。



今後も仮運営が続く奥沢図書館を何とか開架図書館へ戻すために、区は公共施設の複合化方針を打ち出しているなかで、たとえば計画されている周辺の学校改築などを前倒ししてでも、なんとか開架式図書館の再整備計画を示すべきであります。何といっても地元の皆さんは、開架図書館としての再開館を待ち望んでいるわけですから、今後の区の計画方針が地元の皆さんにしっかりと伝わるよう、区にはたらきかけてまいります。

大井町線・東横線の踏切解消に向けて

自由が丘駅周辺地区のまちづくりの動きに合わせて、大井町線・東横線踏切解消に向けて、地元の機運を高めていかなければなりません。世田谷区と目黒区の連携をとりながら機運醸成に向けて、私も地元議員のひとりとして参画してきました。そして自由が丘駅周辺まちづくり「自由が丘１丁目29番地区」の工事は予定通り進み、令和８年夏の竣工を予定しています。次世代の為にも、東急大井町線・東横線の踏切解消の実現に向けて、世田谷区側の機運上昇は大変重要です。



QUESTION

そういった状況の中で、大井町線・東横線の連続立体化に向けては、世田谷区と目黒区の連携は大変重要でありますが、東京都がどう判断していくかが大きな決め手となります。そこで、都の踏切対策基本方針の検討状況について伺います。

ANSWER

道路･交通計画部長

東京都が平成16年に策定した「踏切対策基本方針」では、重点的に対策を実施・検討すべき踏切を重点踏切として抽出し、都、沿線自治体、鉄道事業者連携のもと、連続立体交差事業の踏切対策を進めてきたところですが、都内には、令和６年11月時点においても、約1040箇所の踏切が残っています。

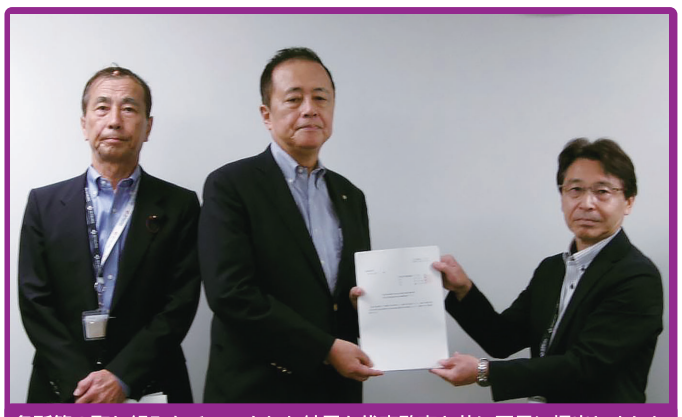
このため、都では、都内全ての踏切の現地調査を行い、これまでの対策の実施状況を確認するとともに、令和６年11月からは、「踏切対策の推進に関する検討会」を設置し、現在「踏切対策基本方針」の改定に向けた検討を進めていると伺っております。

監査委員の任命を受けました

令和７年５月、世田谷区監査委員の任命を受けました。今期後半の２年間を、大変責任の重い役ですがしっかり務めてまいります。

この間は本会議での質問や決算特別委員会での質疑ができません。第１回定例会予算特別委員会が唯一質問する機会となります。

監査日程は議会とは別の日程が組まれており、かなり忙しくなりました。



各所管の取り組みをチェックした結果を代表監査と共に区長に提出しました

監査委員の立場

区の事務事業が法令に従って正しく執行されているか、区民の福祉増進のため最少の経費で最大の効果を挙げているかなど、行財政全般にわたって、公正性・効率性等の観点からチェックを行うために監査委員が置かれています。

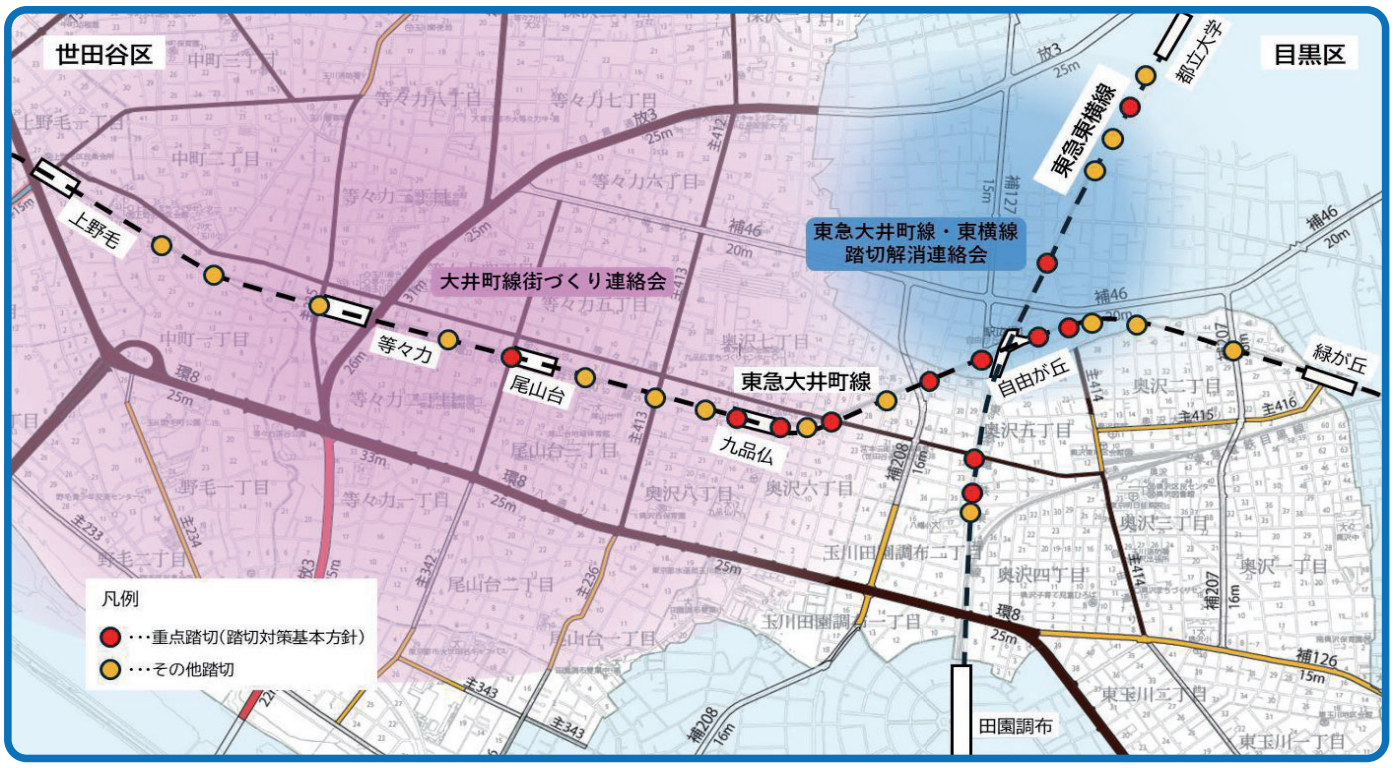
そして毎月の例月出納検査、基金運用のチェックのほかに、支所やまちづくりセンター・学校・幼稚園・保育園・公園や土木管理事務所など、各施設の運営状況なども現場に行って状況を確認します。また住民監査請求などが出ることもあり、緊張した日々を送っています。

ご意見・ご感想はこちらまで　〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 1-40-2　TEL 03-3720-3542　FAX 03-3720-6928

表面からのつづき

踏切解消に向けた、世田谷区・目黒区の取り組み状況

世田谷区・目黒区 令和７年９月10日



世田谷区側の取り組み

＜ 行政 ＞

大井町線沿線街づくりの検討、街づくり方針策定（令和９年度以降予定）

＜ 地元組織 ＞

名　　称：大井町線街づくり連絡会（平成16年９月設立）
構 成 員：町会７団体、商店街５団体、その他（玉川交通安全協会、九品仏浄真寺）、地区部会（町会、商店街15団体）
主な活動：街づくりに関する勉強会、現場見学会など

２区の取組

- プロジェクトチームを設立し、道路と鉄道の立体化を目指した街づくりを検討
- 自動車、歩行者等に着目した道路ネットワークに関する調査検討委託を合同で実施
- 令和８年度から２区にまたがる範囲での街づくり研究会を設立予定

目黒区側の取り組み

＜ 行政 ＞

各駅周辺の街づくりの検討、街づくり方針策定（令和９年度以降予定）

＜ 地元組織 ＞

名　　称：東急大井町線・東横線踏切解消連絡会（令和６年４月設立）
構 成 員：町会５団体、商店街15団体、街づくり活動団体５団体
主な活動：街づくりに関する勉強会、現場見学会など



QUESTION

これまでも約20年ごとに改定がされてきたと聞いております。ちょうどその時期がここに来ているわけですから、都にアピールをしていくのは大変重要であります。**大井町線街づくり連絡会が活動していたと思いますが、沿線まちづくりの機運醸成の取組について伺いたいと思います。**

ANSWER

玉川総合支所長

大井町線沿線街づくりに関しては、沿線の町会・自治会や商店街など27団体で構成される大井町線街づくり連絡会が、平成16年より活動を続けております。
今年度、同団体は鉄道立体化や踏切事故の現状、自由が丘駅周辺地区の街づくりに関する勉強会を実施しております。勉強会開催にあたり区は、目黒区及び鉄道事業者と連携を図りながら支援してまいりました。来年度、連絡会の活動を広く周知することや地区の特性について意見交換をすることを目的に勉強会を地区毎に開催することを予定しております。

鉄道の立体化は大変な一大事業であることは言うまでもありません。区内では小田急線や、現在事業中の京王線にしても、何十年という年月をかけて関係団体と地元の御苦労、努力は大変なものと伺っております。大井町線・東横線の踏切解消に向けては、私たちはもちろん、次の世代へ確実につないでいくためにも、ここでしっかりと連携を取りながら、実現に向けて歩み出してほしいと思います。

奥沢中学校改築が本格的に始まりました



校庭に仮設校舎が設置されました（写真左）
奥に見えるのが体育館棟です

私の母校奥沢中学校の改築工事が本格的に始まり、校庭には仮設校舎が建ち、２学期から仮設校舎に移転しての授業となっています。しばらくの間校庭が３分の１になりましたが、１期工事の間はこれまでの体育館棟が使えるようです。
区内ではこれから区立小中学校を年３校のペースで建て替えていかなければならず、予算（１校の改築で約60～70億）や人員の確保をしっかりしながら、計画的に進めていかなければなりません。そして今回の奥沢中学校改築では、複合化して新たな区立児童館の整備や、区内初めての簡易温水プールの整備など（小・中共同利用可）、これからの公共施設の在り方が大きく変わろうとしています。これまでも私の議会での質疑で取り上げてまいりましたが、公共施設整備を着実に進めていけるよう、引き続き皆さまとともに声を上げてまいります。

区民生活常任委員会行政視察　６月30日～７月２日

私が所属します区民生活常任委員会の行政視察、今回は４か所の自治体での特徴ある各取り組みについて視察しました。



芸術・文化・歴史を総合的に発信する拠点「伊丹ミュージアム」
江戸時代の建物を利用しクラフトショップも

浜松市役所

ごみの減量・リサイクルの取り組みについて視察しました。**世田谷区でも今後より一層取り組んでいかなければなりません。**

伊丹市立伊丹ミュージアム

文化芸術の振興に向けた取り組みを視察。**区は誰もが文化芸術を楽しめるまち世田谷を目指しています。**

京都市宝ヶ池アーバンスポーツパーク

適切なスポーツ施設の整備・配置について視察しました。**区内のスポーツ施設不足はこれからも大きな課題です。**



令和７年４月にオープンしたスポーツパーク
ミニパークも整備されアーバンスポーツが身近に

岡山市スタートアップ支援拠点

地域経済の発展や活性化に向けた取り組みを視察しました。**区は令和７年７月に「ホームワークビレッジ」を池尻に開設しています。**

自民党世田谷区議団会派視察　８月６日～８月８日

区議団の会派視察、福岡市と北九州市を中心に14名全員で視察しました。区の高齢化対策や、不登校問題・在宅避難の啓発・バス路線の減便や廃止問題等に取り組んでいくため、参考にさせていただきます。

福岡県介護DX支援センター

介護事業所の支援、介護人材の確保・定着促進の取り組みを視察。

福岡市立百道松原中学校

不登校児支援の取り組みを視察。
世田谷区の不登校児は約1500名です。

福岡市役所

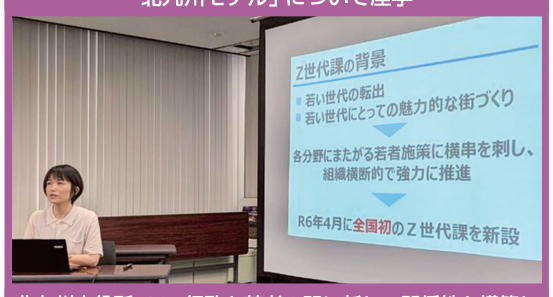
マンション防災の取り組みとFUKUOKA Smart EASTの　取り組みを視察。

北九州市役所

地域公共交通の取り組みとＺ世代課の取り組みを視察。



北九州市役所での「交通空白解消対策緊急事業北九州モデル」について座学



北九州市役所での、行政と若者の間に新しい関係性を構築しともに街をつくることを目的にしたＺ世代課について座学